

墨田区基本構想審議会 第2部会（第2回）

令和6年8月29日（木）



本日の議題

1 第1回部会の振り返り

2 分野別審議

- ①高齢者支援に関すること
- ②障害者支援に関すること
- ③地域福祉に関すること



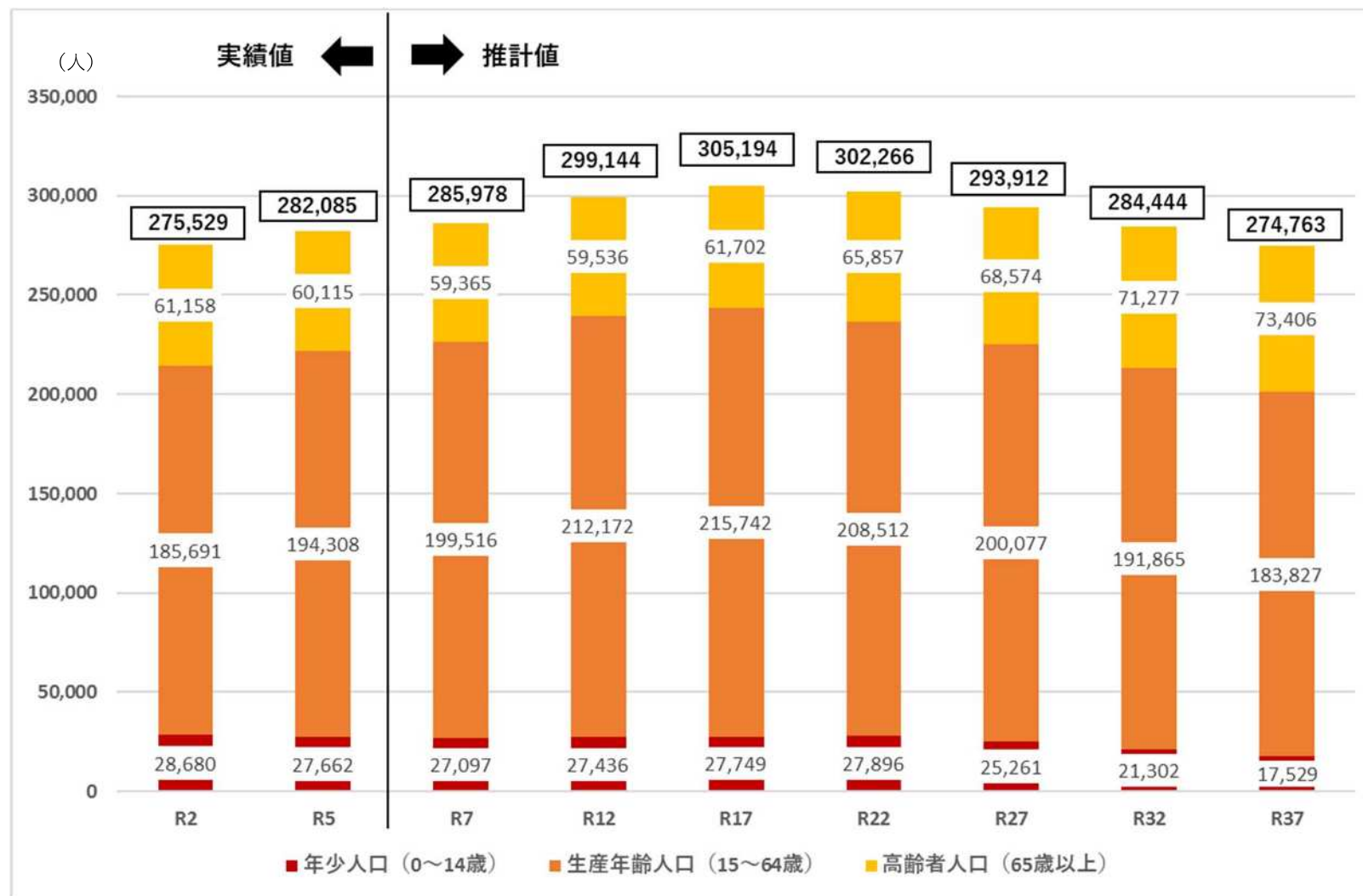
1 第1回部会の振り返り

委員の発言を踏まえたデータの共有

- ・人口
- ・高齢者のいる世帯の所有関係別住宅の割合
- ・公園面積の比較（近隣区、同規模区）

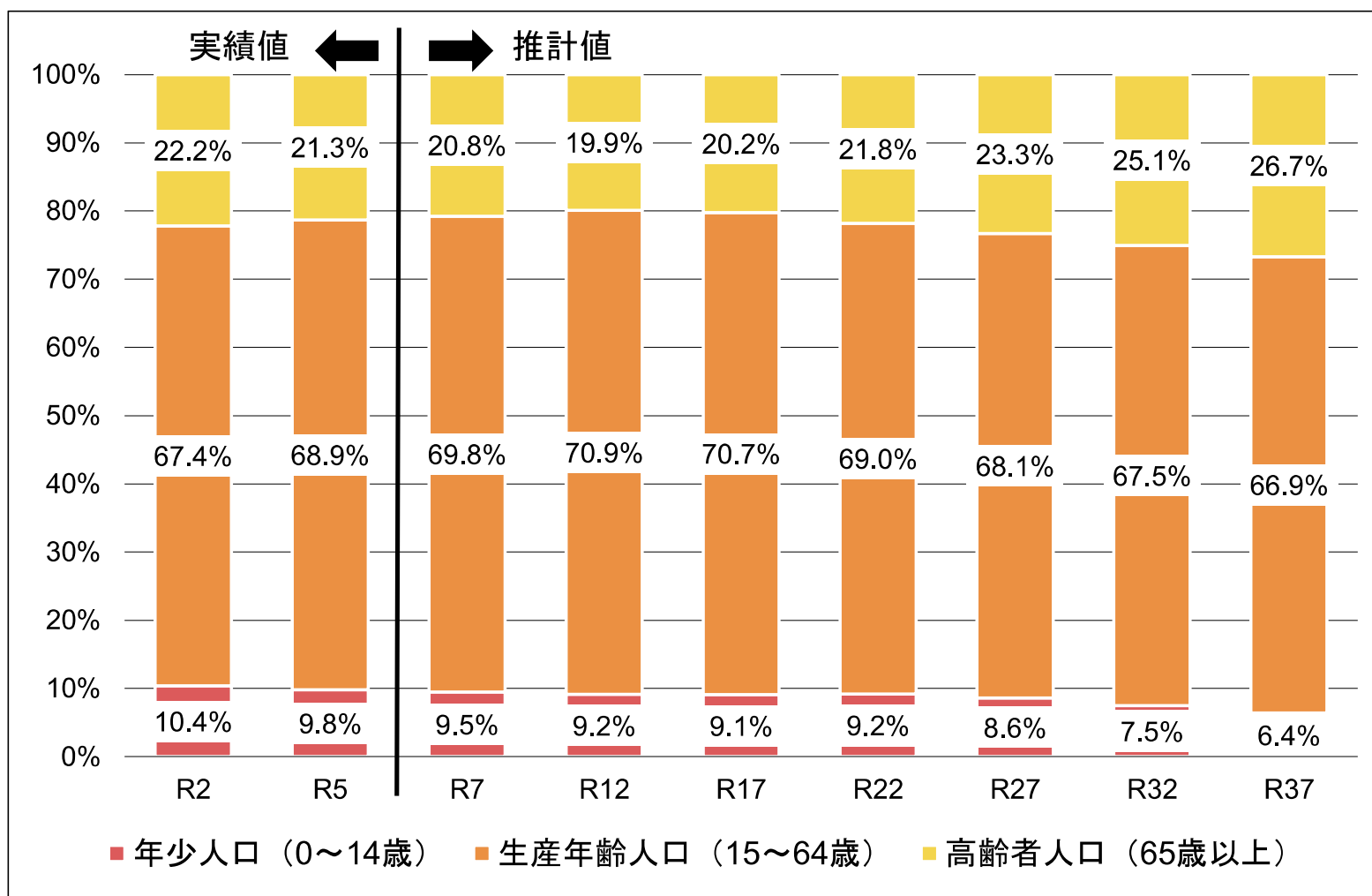
人口の推移

・年齢3区分別人口の推移



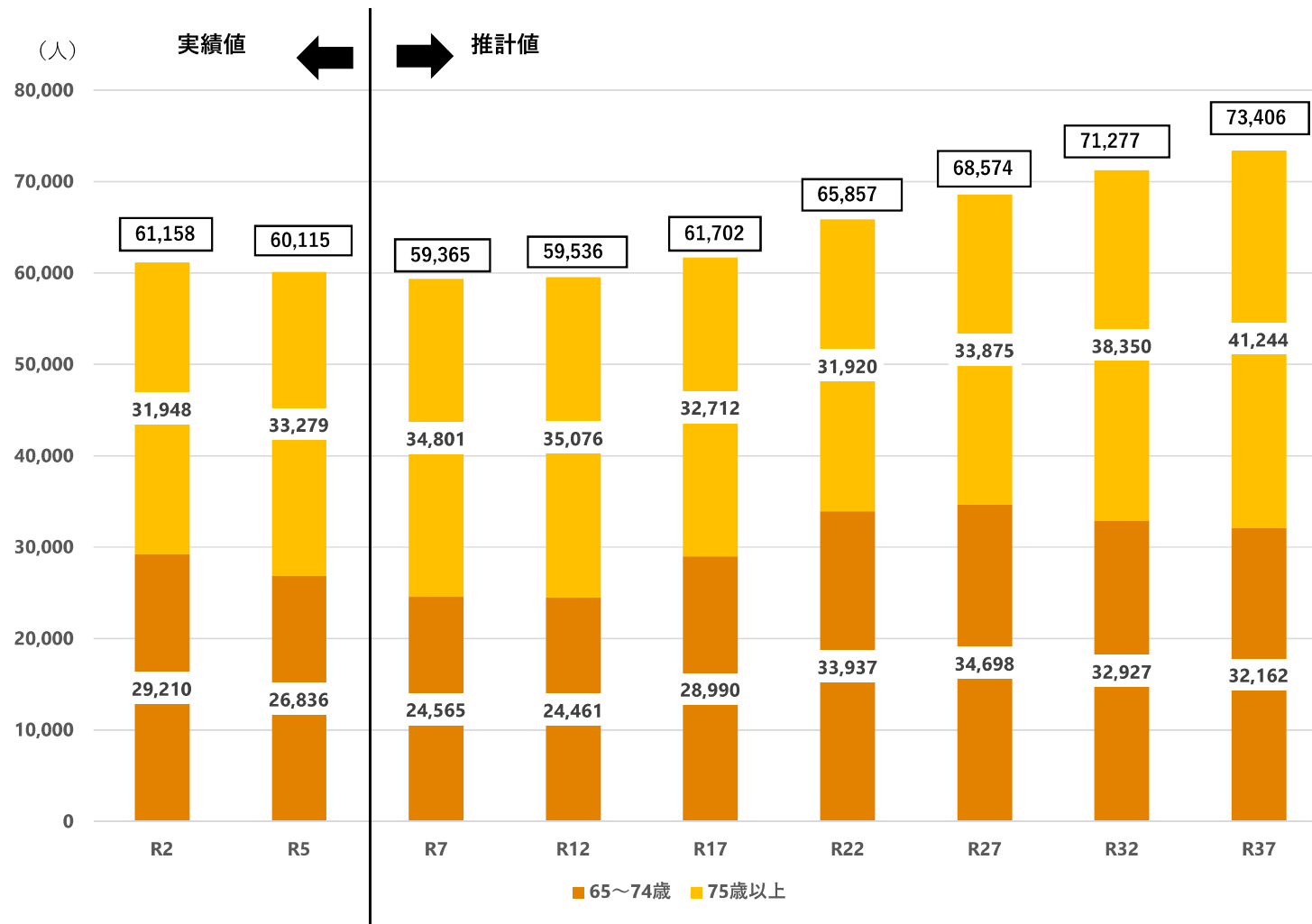
人口の推移

・ 年齢3区分別人口比率

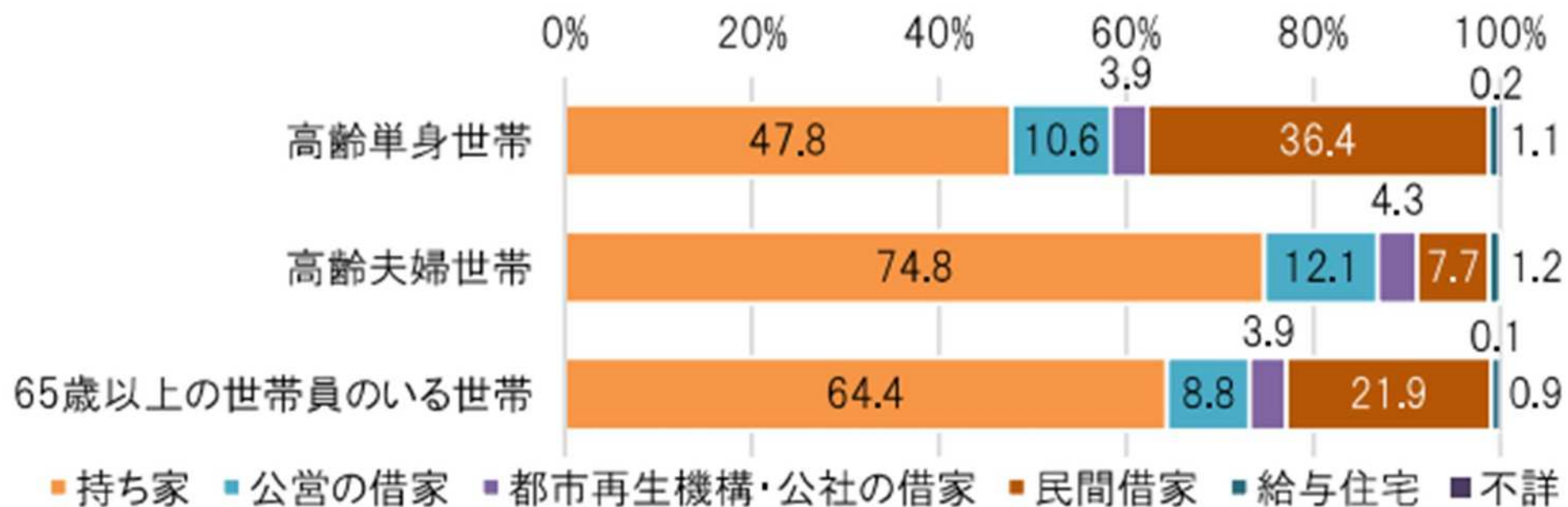


人口の推移

・高齢者人口（65歳以上）



高齢者のいる世帯の所有関係別住宅の割合

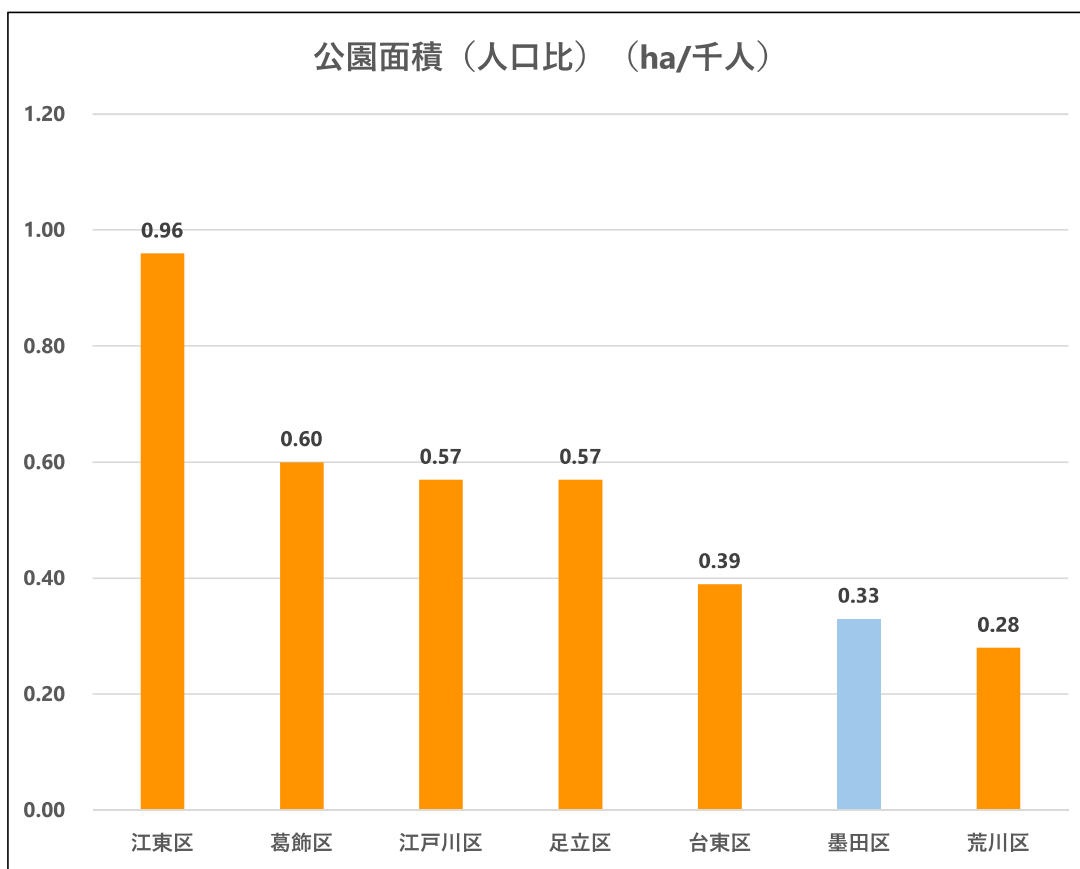
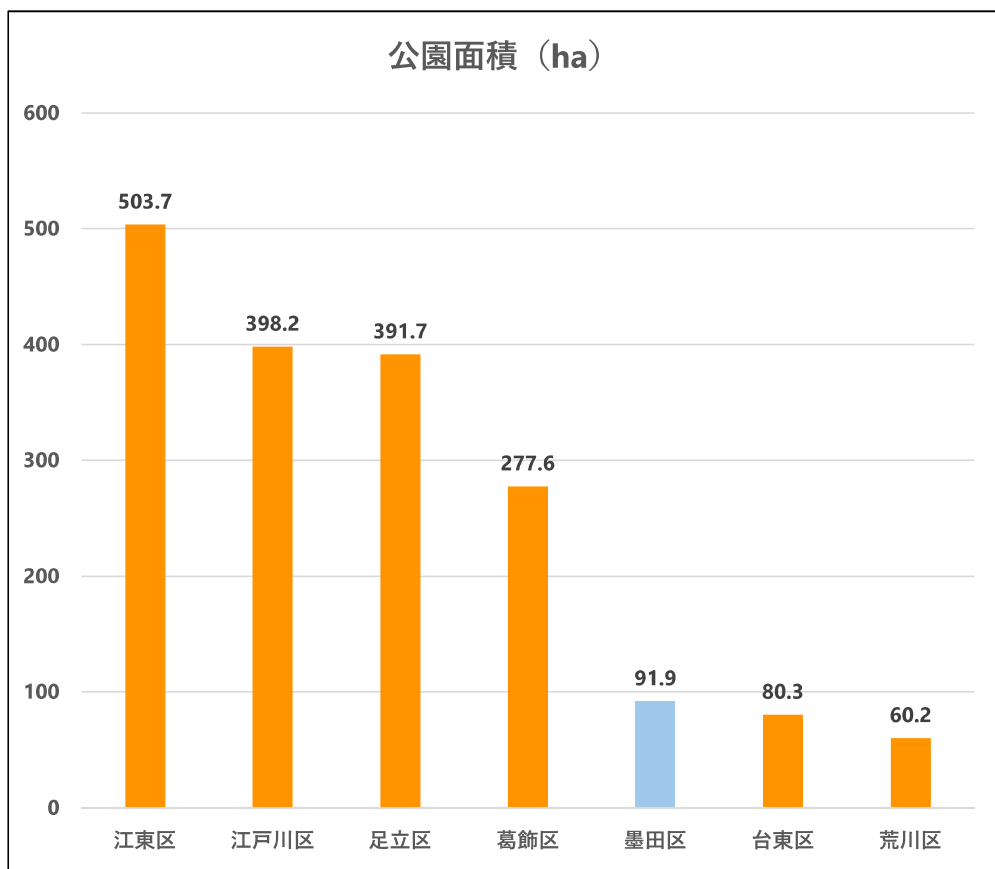


資料：住宅・土地統計調査独自集計（平成 30 年）

出典）墨田区住宅マスタープラン改定基礎調査報告書-概要版-

公園面積の比較（近隣区、同規模区）

・近隣区比較

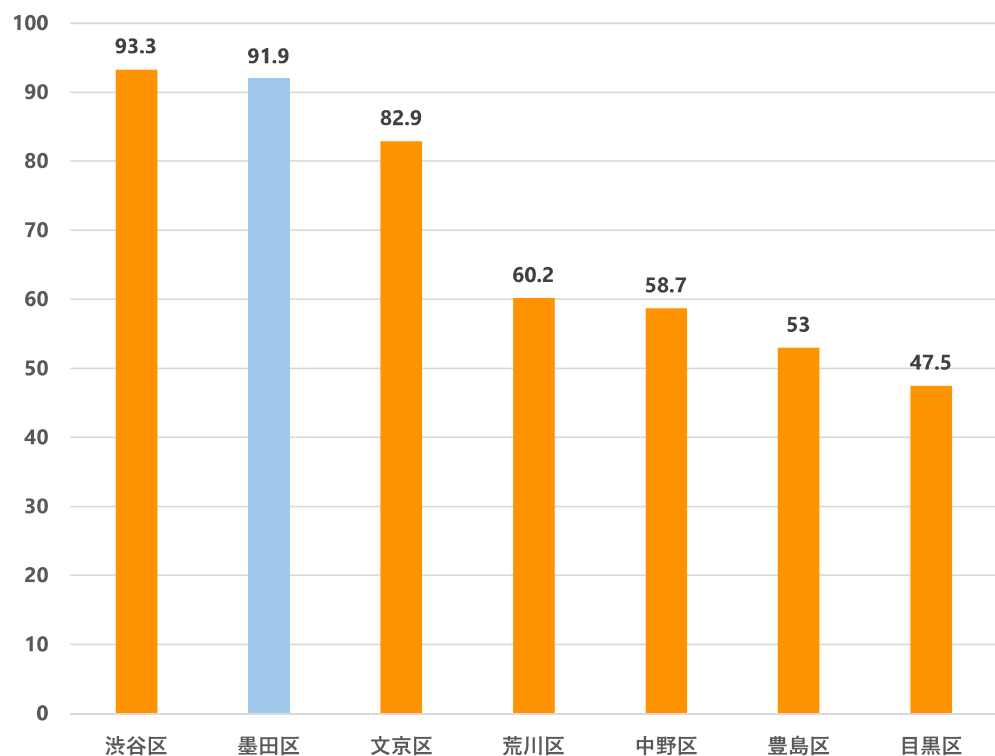


出典）東京都の統計「地域別土地利用面積」（令和3年）

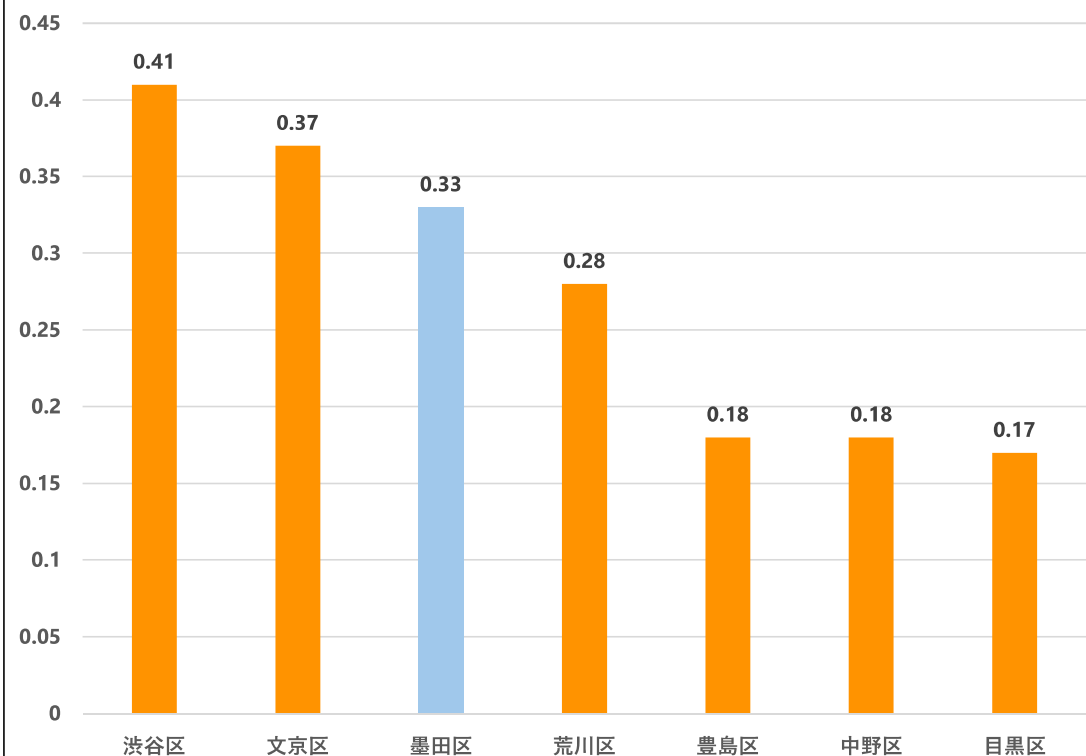
公園面積の比較（近隣区、同規模区）

・同規模区比較

公園等面積（ha）



公園面積（人口比）（ha/千人）

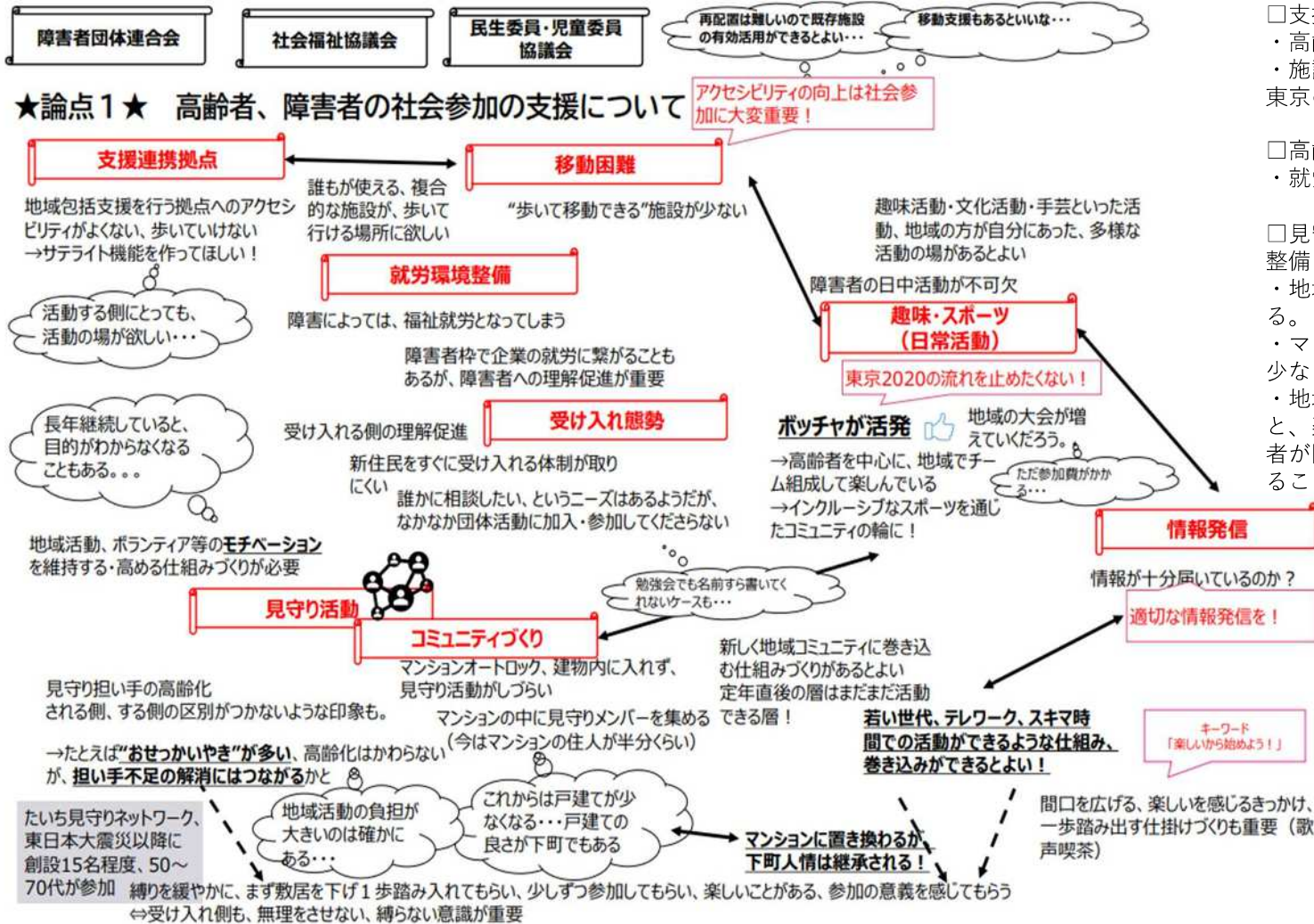


出典）東京都の統計「地域別土地利用面積」（令和3年）

2 分野別審議

- ① 高齢者福祉に関すること
- ② 障害者福祉に関すること
- ③ 地域福祉に関すること

区内団体ヒアリングの結果①



□支援連携拠点のアクセスについて

- ・高齢者・障害者が歩いて利用できるかという視点が求められる。
- ・施設利用は社会参加の観点からも重要であり、既存施設の活用や、東京の交通手段に合った移動支援の仕組みの検討が必要。

□高齢者、障害者の就労環境の整備について

- ・就労促進に向けて受け入れる企業の理解促進が必要。

□見守り活動の充実にに向けたコミュニティづくりと受け入れ態勢の整備について

- ・地域コミュニティの担い手の高齢化、担い手の確保が重要である。
- ・マンション住民にもコミュニティ活動に参加してくれている人も少なくないが、一層の参加促進が必要。
- ・地域活動への参加のハードルを下げて少しずつ参加してもらうこと、楽しみや意義を感じてもらうこと、若い世代やテレワーク勤務者が隙間時間で活動できる仕組み、参加に係る適切な情報を提供することなどが有効。

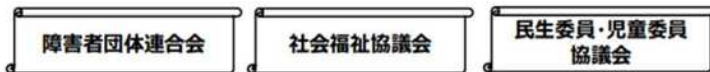
□趣味・スポーツ等の活動がしやすい環境整備について

- ・高齢者・障害者の日常的な活動として、趣味活動・文化活動・手芸といった活動、地域の方が自分にあった、多様な活動の場があるとよい。
- ・学校との連携により高齢者と子どもたちとの交流の機会を増やすことが有効。

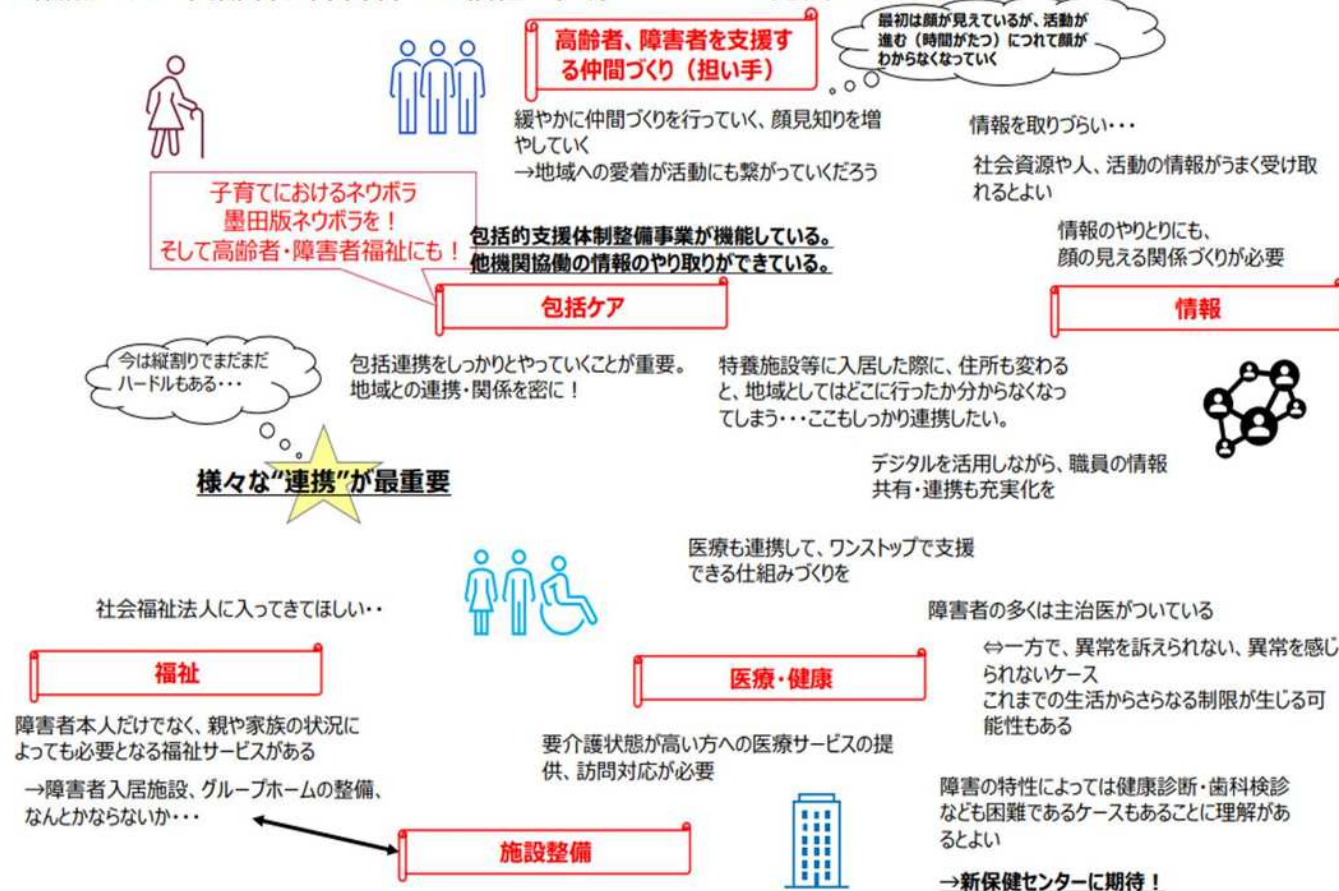
□趣味・スポーツ等に係る個人や団体の支援について

- ・東京2020パラリンピックを契機として区内でもボッチャが活発になっており、こうした可能性を広げる取組が必要。
- ・区報で健康・福祉の欄で紹介されている様々なイベントは健康づくり、生きがいづくりに有効。
- ・リーダーの不在により活動団体が解散、減少するケースも見られるため、その育成やデジタル化等による各種事務負担の簡素化などの支援が必要。

区内団体ヒアリングの結果②



★論点2★ 高齢者、障害者への福祉・医療サービスの充実について



□高齢者・障害者を支援する仲間づくりについて

- ・緩やかに仲間づくり、顔見知りを増やしていくことが有効。
- ・ご近所づきあいから顔見知りになり、それが地域への愛着を生み出すことにつながる。こうした意識が福祉支援にも繋がる。
- ・社会資源や人材、活動に関する情報を得やすくすること、情報のやり取りに際しても顔が見える関係づくりをすることなどが重要。

□地域包括ケアについて

- ・包括連携をしっかりとやっていくことが重要であり、そのためにデジタルの活用などにより、地域と関係主体の連携・関係を密にし、ワンストップで支援できるようにすることが必要。
- ・施設等に入居した際も、地域として居場所が把握できていることが望ましい。
- ・子育てにおけるネウボラ（切れ目のない支援）と同様の考え方を、高齢者・障害者福祉にも当てはめた墨田版ネウボラの構築が望ましい。

□施設整備と福祉サービスの整備について

- ・障害者入居施設、グループホームの整備が必要。
- ・障害者本人だけでなく、親や家族の状況によっても必要となる福祉サービスがあり、こうしたサービスの充実が必要。

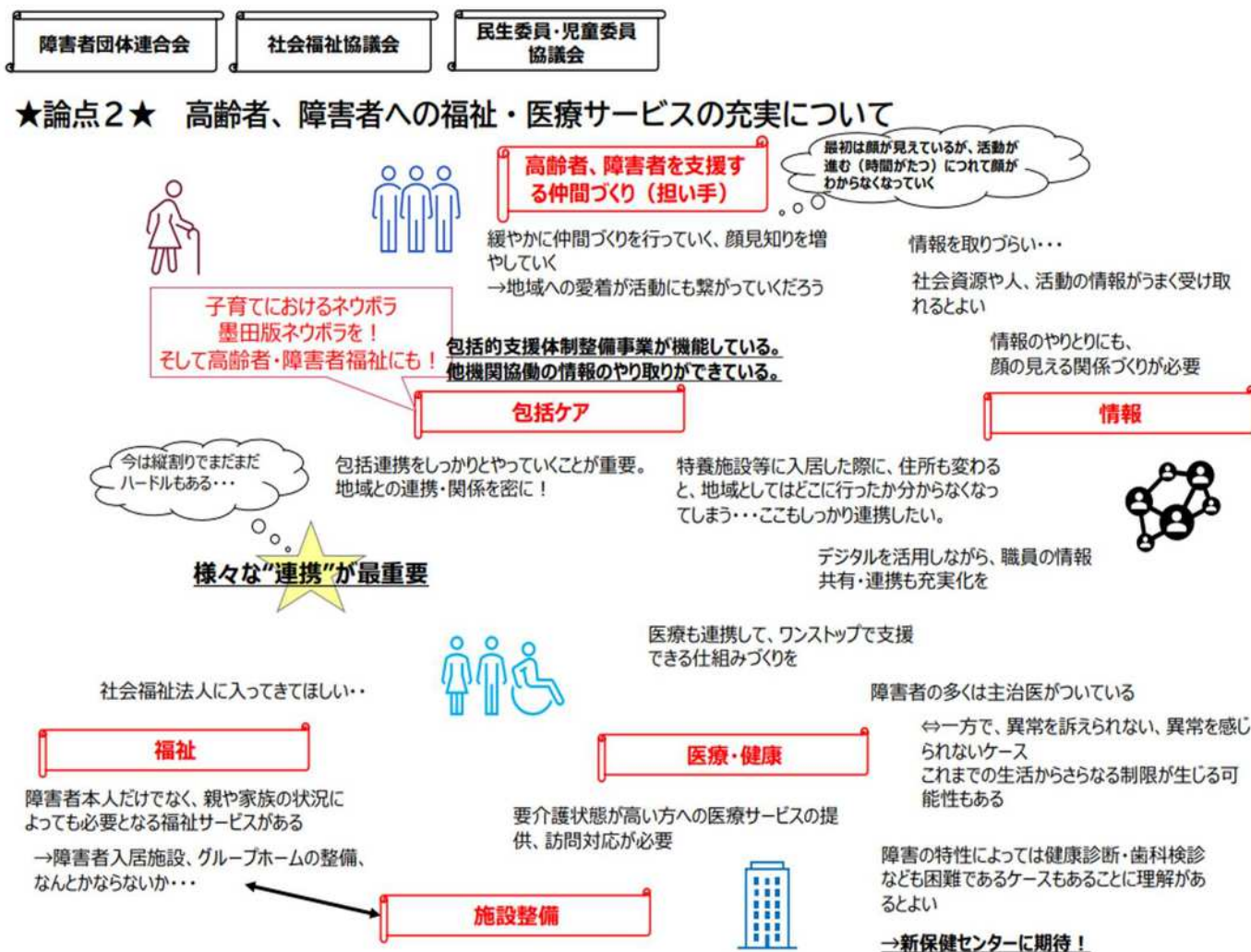
□平時からの対策拠点整備の必要性について

- ・災害や新しい感染症に対し、新保健等複合施設や新医師会館（休日応急診療所）、各病院などを活用し、平時から対応できる拠点を整備することが必要。

□高齢者支援総合センターと関係団体の連携について

- ・高齢者支援総合センターと関係団体との連携が高齢者の健康維持に寄与しており、関係団体への情報提供、活動支援など連携の緊密化を図ることが有効。

区内団体ヒアリングの結果②（つづき）

☐医療・健康支援について

・障害者の中には、異常を訴えられない、異常を感じられない方や、障害の特性によっては健康診断・歯科検診などを受診することも困難であるケースもあることを理解したうえでの、医療・健康支援が必要。

・口腔機能の重要性について行政からのアナウンスを強化してほしい。
重症化する前に早めに治療することが重要であり、また生活習慣の影響
も大きいので若い世代からの啓発が重要。

□円滑な医療関係機関の連携体制の活用について

・墨田区は従来から医療関係機関の連携が円滑であり、コロナ対策にもこの体制が効果的に機能した。今後もこの体制の維持が期待される。

・目指すべきは、医・歯・薬・看護・介護・福祉サービス、いわゆる多職種全体としてのスムーズな連携である。各団体の交流はある程度出来つつあるが、全体としてのまとまりに未だ問題があるため、区が主導して医療・介護関係主体の連携を強化してほしい。

・各団体への委託事業について、滞りなく履行できるように支援していただきたい。

・ 8つの包括センター相互の連携の強化が重要である。各包括独自の事業について、良いと思われる事業は積極的にすべてのセンターで行えるよう、情報共有・連携が出来ると良い。

□医療介護福祉サービスのIT化について

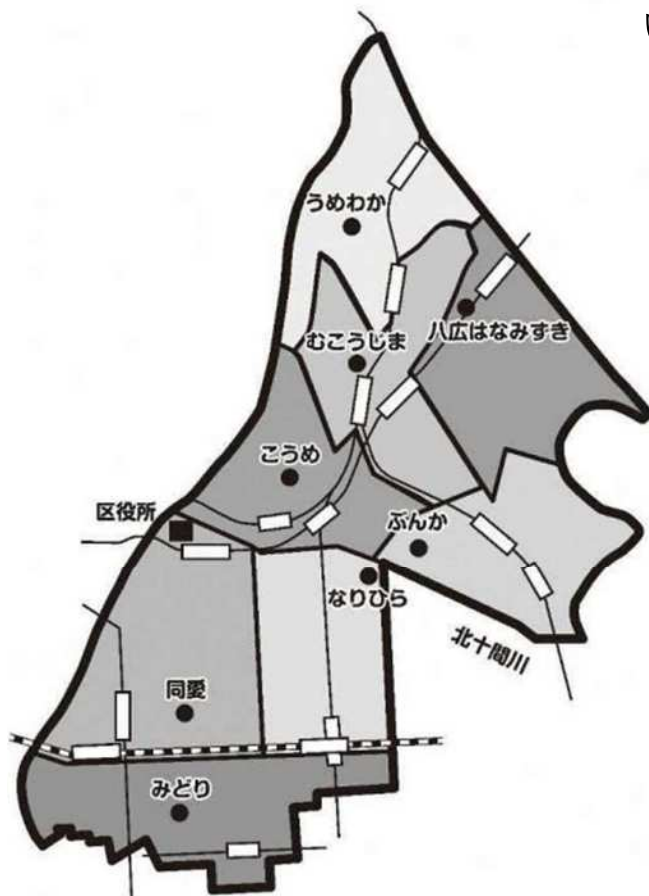
- ・医療介護に関わる主体間の連携に際して、円滑な連携のために従来の紙ベース（多職種連携シート）の伝達ではなく、電子媒体化が必要。

- ・災害時の要配慮者の情報について、情報量が多いため電子媒体化が必要。

・医療に係る多職種間における電子媒体化による情報共有について、以前墨田区ではMCS（メディカルケアステーション）を活用した情報共有の話があったが、課題もあり、進んでいない。医療だけでなく介護関係者も含め、医療DXやIT化の推進が必要。

関連データ（高齢者福祉）

■日常生活圏域と高齢者支援総合センターの位置



- ・高齢者人口、75歳以上人口、85歳以上人口ともに「ぶんか」圏域で最も多い。
- ・高齢化率、後期高齢化率、85歳以上高齢者ともに「うめわか」圏域で最も多い。

■日常生活圏域別高齢者人口の現状

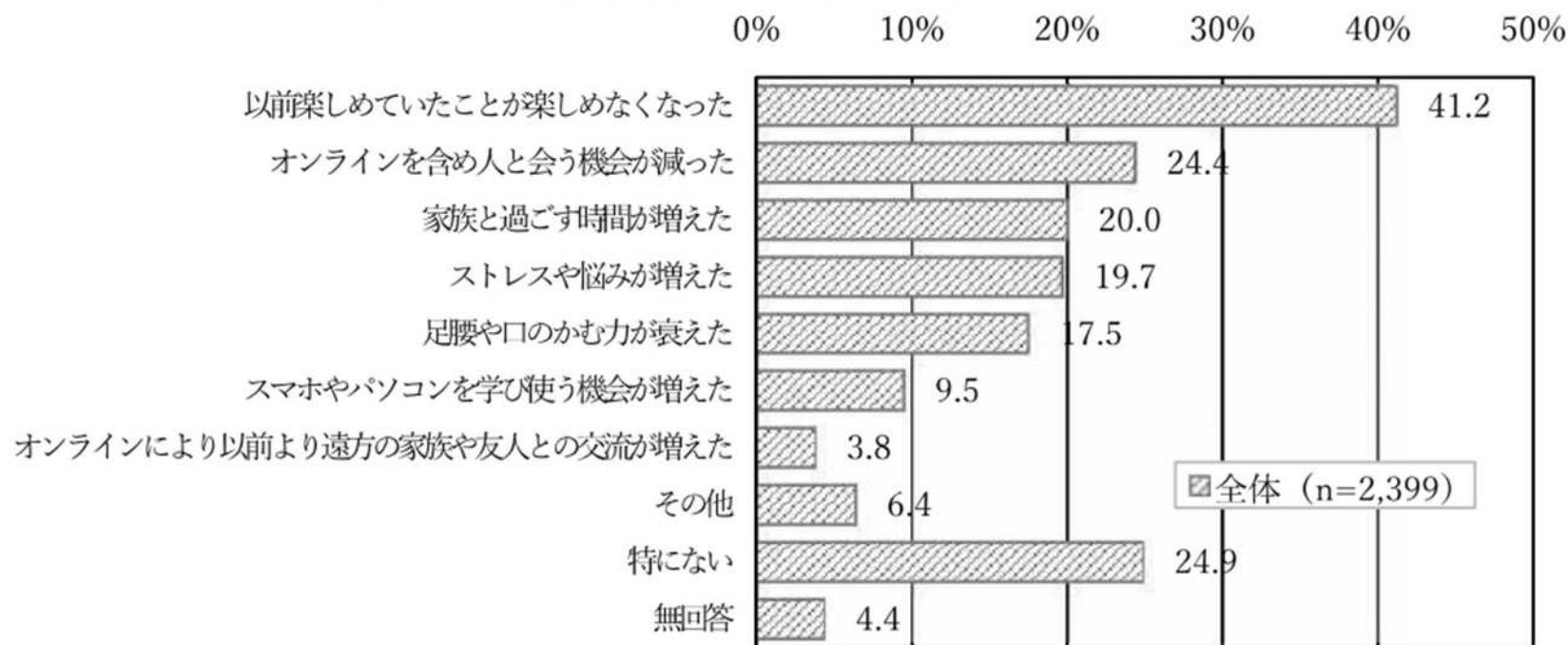
区 分	町 名	人 口	高齢者人口 高齢化率	うち75歳以上 後期高齢化率	うち85歳以上 高齢者率
みどり	両国、千歳、緑、立川、 菊川、江東橋	55,768 人	7,831 人 14.0%	4,068 人 7.3%	1,302 人 2.3%
同愛	横網、亀沢、石原、本 所、東駒形、吾妻橋	45,041 人	7,956 人 17.7%	4,336 人 9.6%	1,388 人 3.1%
なりひら	錦糸、太平、横川、業 平	35,103 人	7,033 人 20.0%	3,860 人 11.0%	1,242 人 3.5%
こうめ	向島、押上	27,472 人	5,947 人 21.6%	3,265 人 11.9%	1,077 人 3.9%
むこうじ ま	東向島一、二、三、五、 六丁目、京島	34,392 人	8,210 人 23.9%	4,751 人 13.8%	1,519 人 4.4%
うめわか	堤通、墨田、東向島四 丁目	28,637 人	7,997 人 27.9%	4,717 人 16.5%	1,520 人 5.3%
ぶんか	文花、立花	31,803 人	8,617 人 27.1%	4,986 人 15.7%	1,536 人 4.8%
八広はな みずき	八広、東墨田	25,715 人	6,350 人 24.7%	3,621 人 14.1%	1,153 人 4.5%

（注）令和5年10月1日現在、資料：墨田区住民基本台帳

関連データ（高齢者福祉）

- ・コロナ禍によって、「以前楽しめていたことが楽しくなくなった」と感じる高齢者が多い。

■コロナ禍による生活の変化（複数回答）



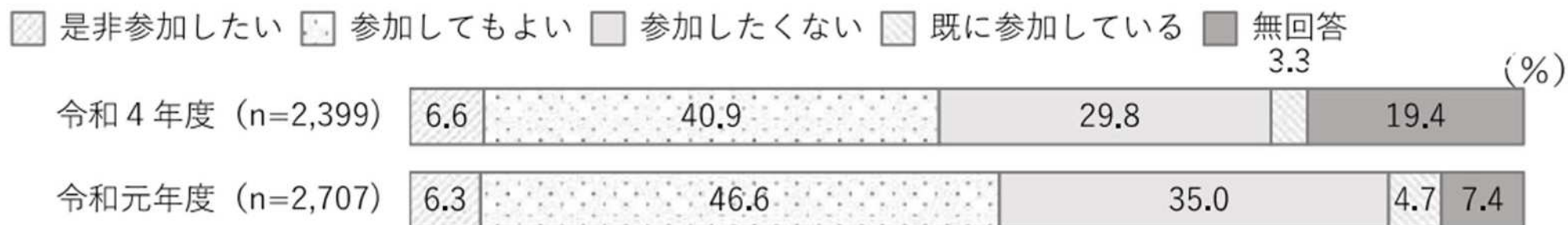
資料：墨田区『令和4年度墨田区介護予防・日常生活圏域二一ズ調査報告書』令和5年3月

出典）墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画

関連データ（高齢者福祉）

- ・地域づくりへの参加者としての参加意向（「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答の合計）は、47.5% 前回調査時に比べ、5.4ポイント減っている。
- ・「参加したくない」割合は29.8%であり、前回調査時から5.2ポイント減っている。
- ・一方、「無回答」が19.4%と前回調査時から12.0ポイント増えている。

■地域づくりへの参加者としての参加意向

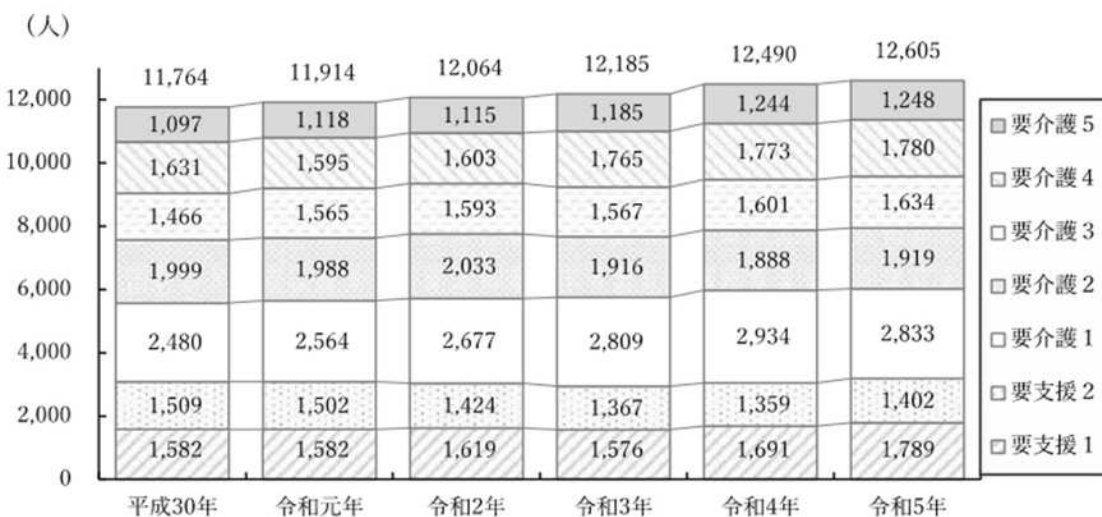


資料：墨田区『令和4年度墨田区介護予防・日常生活圏域二エズ調査報告書』令和5年3月

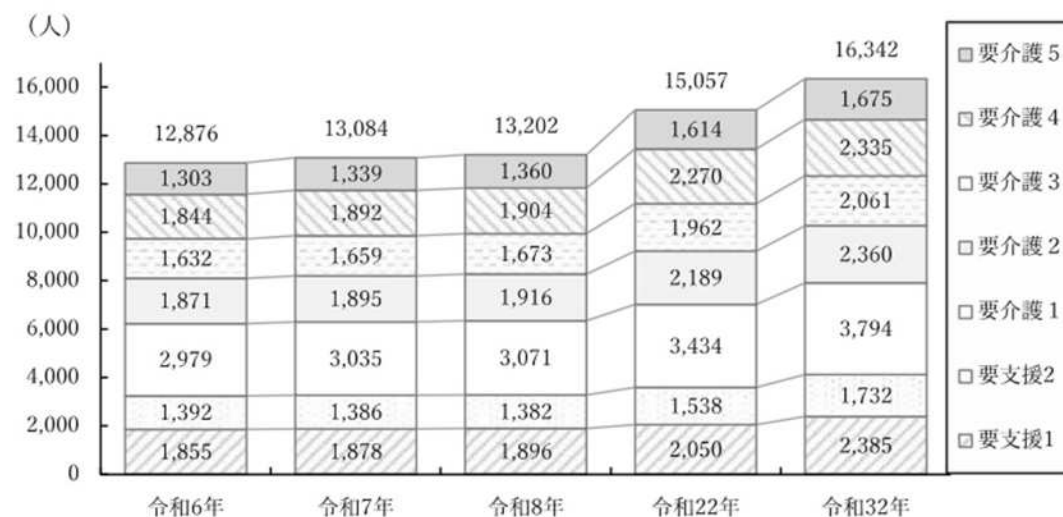
関連データ（高齢者福祉）

- ・要支援・要介護認定者数は増加傾向。要介護別にみると特に要介護1が増えている。
- ・要支援・要介護認定者数の見込みでは、総数は年々増加が見込まれ、特に要介護3以上の伸び率が高くなっている。

■介護度別要支援・要介護認定者数の推移



■要支援・要介護認定者数の見込み



出典）墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画

関連データ（高齢者福祉）

令和4年度介護事業所の実態として、職員の過不足の状況は、

- ・「充足している」が37.3%で前回調査時より7.4ポイント改善
- ・不足（「やや不足」「不足」「大いに不足」の合計）は、59.9%で、前回調査時より8.1ポイント改善

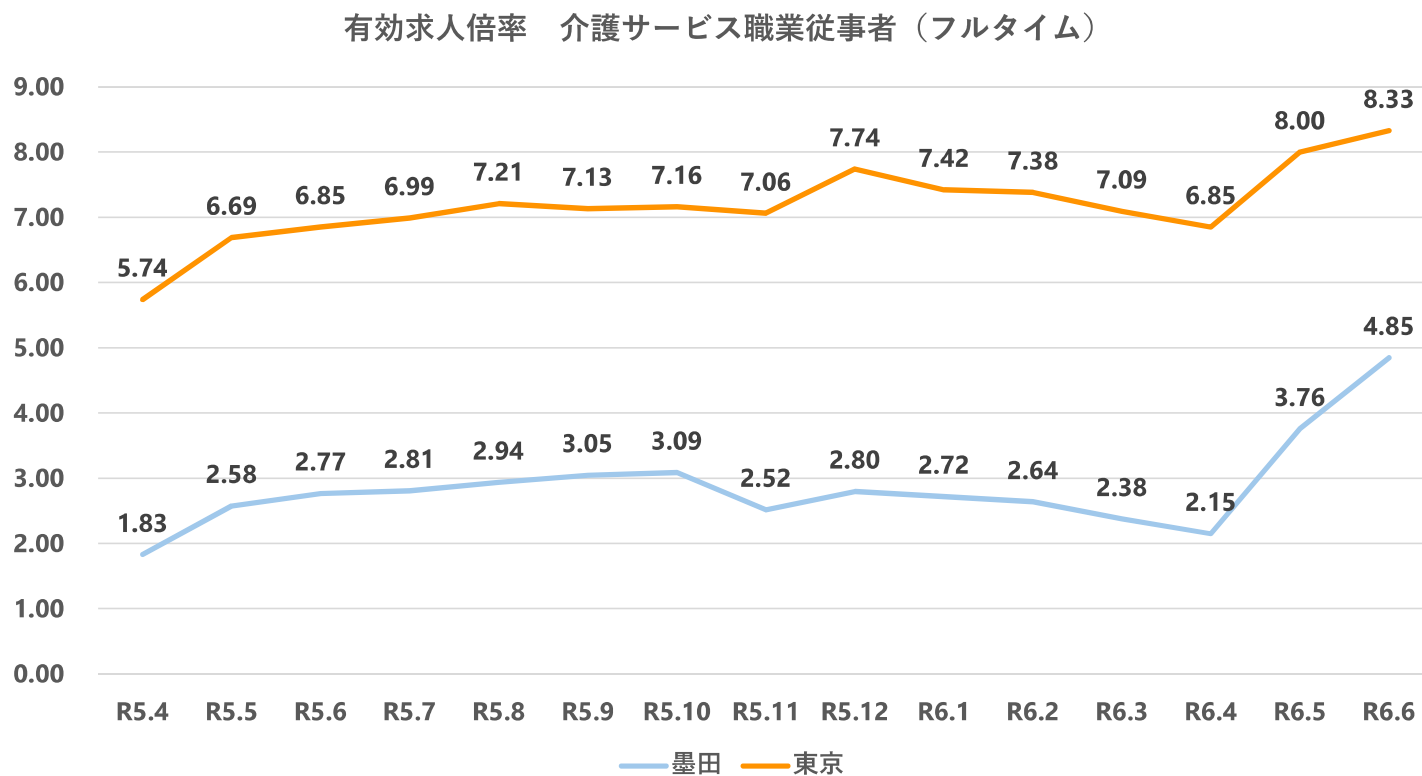
■職員の過不足の状況



資料：墨田区『令和4年度墨田区介護サービス事業所調査報告書』令和4年12月

関連データ（高齢者福祉）

- ・介護サービス職業従事者の有効求人倍率で見ると、令和6年6月時点で4.85倍で、前年同月の1.75倍
- ・求職者1人当たり約5件の求人があり、人手不足だと読み取れる。



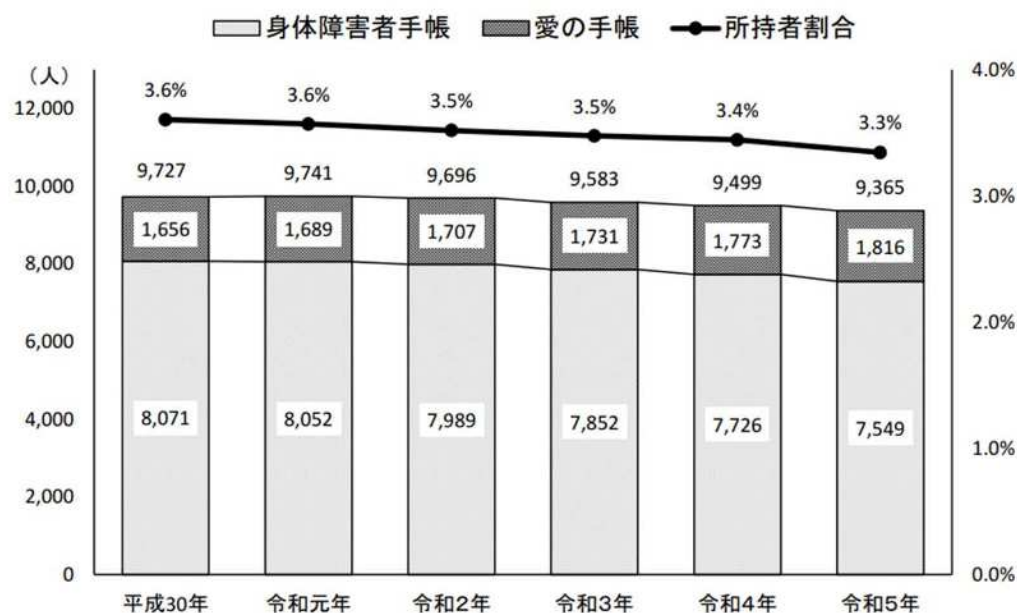
出典）ハローワーク墨田 職種別有効求人・求職状況／求人賃金状況

※ハローワーク墨田の管轄は、墨田区と葛飾区であるため、必ずしも墨田区だけの数値を反映してものではない。

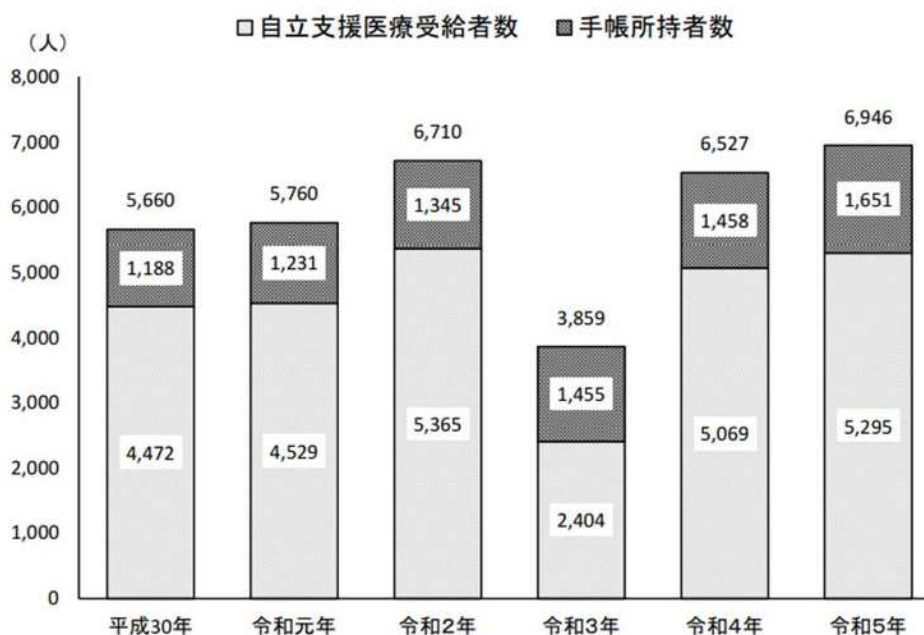
関連データ（障害者福祉）

- ・ 障害者手帳所持者数は、身体障害者数は微減、知的障害者数は微増の傾向
- ・ 精神障害者数を精神障害者保健福祉手帳保持者及び自立支援医療受給者の人数で捉えると、増加傾向にある。

障害者手帳所持者数の推移



精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療受給者数の推移



※各年 3月31日

※身体障害者手帳と愛の手帳（知的障害者の手帳）の重複所持者は、それぞれに計上している。

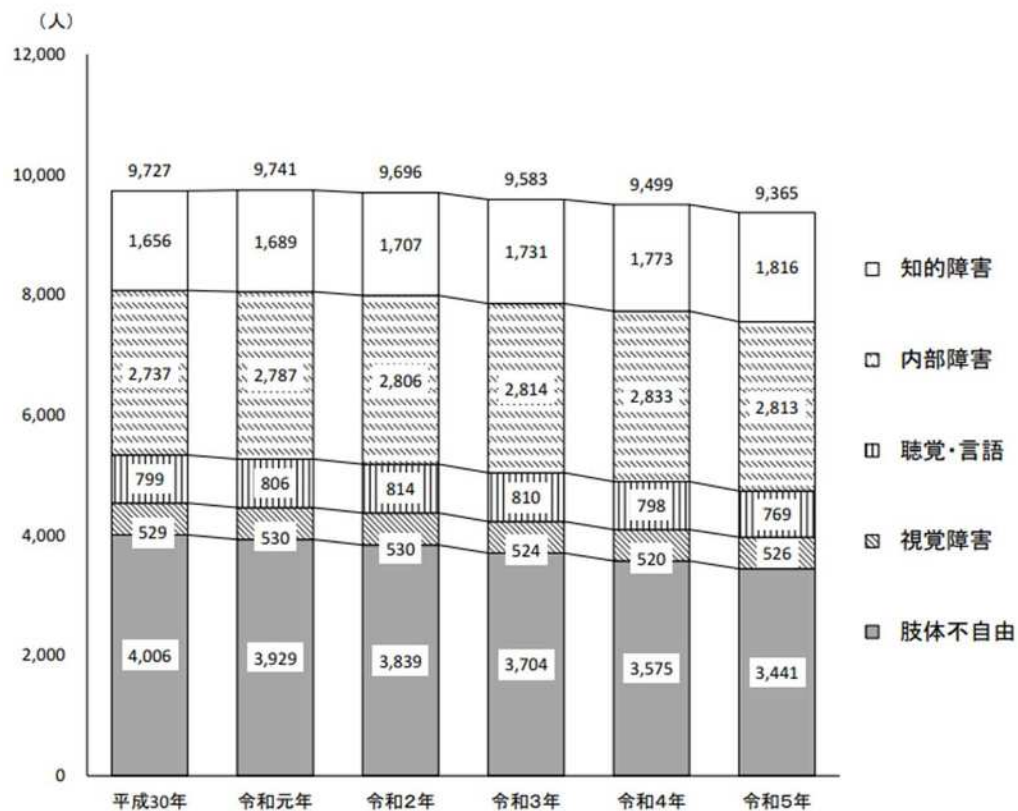
※手帳所持者割合＝手帳交付台帳登載者数合計／総人口（各年 4月1日現在の住民基本台帳）

※障害者福祉課調べ

※令和3年に自立支援医療受給者数が減少している理由として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から自立支援医療の更新が自動延長となり手続きが不要となったため、更新者が大幅に減少したことが挙げられる。

関連データ（障害者福祉）

障害の種別の推移



※各年3月31日

※身体障害者手帳所持者＝手帳交付台帳登載者数であり、重複障害の方は重複してカウントされている。

※障害者福祉課調べ

・身体障害者手帳所持者の障害種別は、平成30年度以降、内部障害の人が増加傾向。

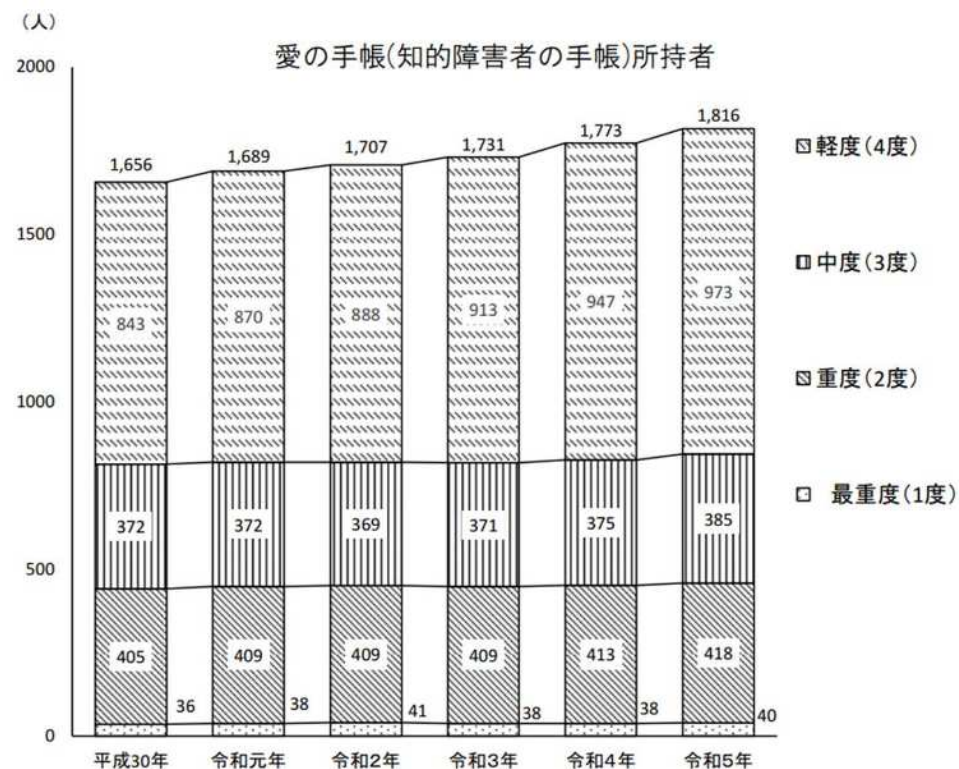
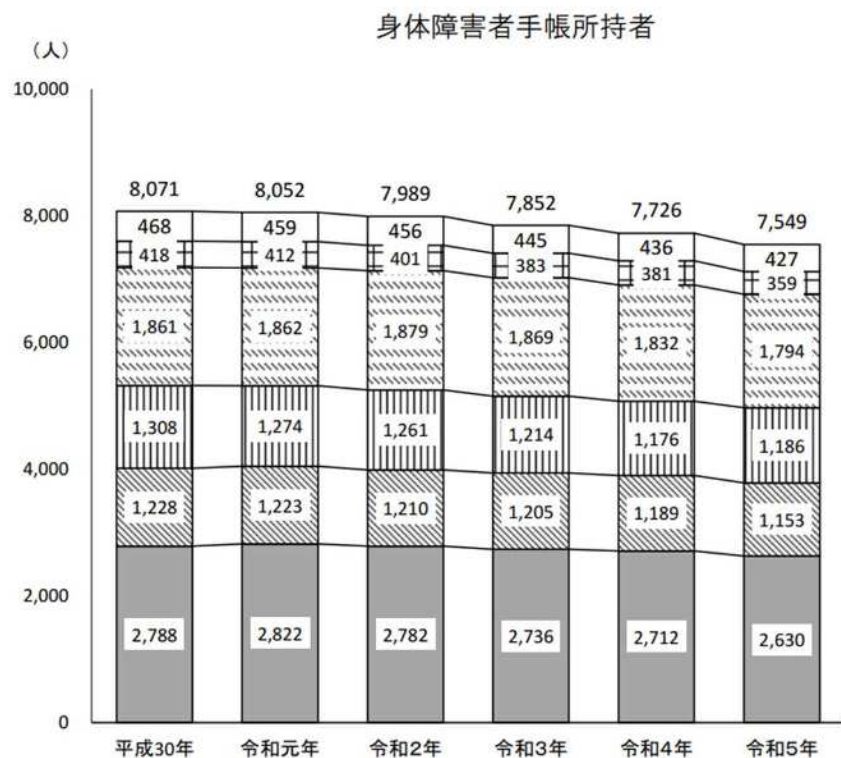
・聴覚・言語、肢体不自由は減少傾向、視覚障害は横ばい

・愛の手帳（知的障害者の手帳）所持者は微増

関連データ（障害者福祉）

- ・身体障害者手帳所持者のほぼ半数が、1～2級の重度の障害である。
- ・愛の手帳（知的障害者の手帳）所持者は、特に軽度（4度）の人の増加率が高い。

障害の程度の推移



出典）墨田区障害福祉総合計画

関連データ（地域福祉）

- ・平成28年をピークに、被生活保護世帯、被保護者数ともに減少
- ・保護率（‰）は一貫して減少

